

Question:

私は保育園に勤務しており、自閉症のお子さんと接する機会が多くあります。

子どもたちにもいろいろなタイプがあります：

- 昼寝の時間に眠りたいのに、興奮状態で眠れない子どもたち
- 自傷行為をする子
- 刺激が欲しくて、気が散るたびにあげや股をどこかにこすりつけてしまう子どもたち

このような子どもたちに、ベビーマッサージでできることはないでしょうか。

直接マッサージをすることができないのは理解していますが、お昼寝中に、気持ちよく触ったり、叩いたりすることは、やはりいけないことなのでしょうか？

Answer:

まず、ご自身が勤務されている保育園で、保育者が（子どもに触れることに関して）どこまで許されているかによって、タッチの実践範囲が異なってくることをご理解ください。

子ども達と接する中で、心を落ち着かせたり、感覚を育てる活動の一環として「優しく触れる」ことがあるかと思いますが、ご自身がしっかりと、自分の役割としてタッチセラピーを施術していると認識がある、という前提で、それぞれの状況に応じた案をご紹介します。

● お昼寝の時間に眠りたいのに、興奮状態で眠れない子どもの場合

お昼寝には、正中線をまたぐタッチ・手技がおすすめです。お昼寝の前に、お子さんと一緒に手と手を優しく叩いたり、片方の手を反対の手で触って入れ替えたりするなど、交差する活動を行ってみましょう。その後、可能であれば、愛情のこもったタッチを背中に繰り返し、続いてクロスマイハート、（滑る動作に耐えられるようであれば）やすらぎのマッサージを行います。

● 自分を傷つける子どもの場合

自傷行為の原因はさまざまですが、そのひとつに過剰な刺激があります。その場合は子どもが置かれている環境の中で視覚、聴覚、嗅覚などへの刺激をできるだけ抑えてあげる必要があります。また、安全で効果的な静的刺激を与えることで、本人が抱える刺激の欲求を満たしつつ、状態を落ち着かせることも考えなければなりません。

もし子どもが手のマッサージに抵抗がないのであれば、これがベストなアプローチになります。

また、顔のマッサージ、特に額のマッサージや、愛情のこもったタッチ（抱っこの状態で）をたくさん行うことも大切です。ひとつの手技から次の手技への切り替えは、ゆっくりと行いましょう。

● 刺激を求めて、気が散るとあごや股間をどこかにこすりつけてしまう子どもの場合

このような場合には、安全を保ちながら、本人が満たされる刺激を与えてあげる必要があります。そのためには、さまざまな触覚玩具や感触を使って、子どもが好む感触を見つけることが大切です。感触とは、例えば、柔らかいもの、引っかかるもの、滑らかなものなどです。どんな感触でも構いませんので、いろいろな種類のおもちゃを試し、手で触ってみるのもよい方法です。愛情のこもったタッチで心を落ち着かせることもできますし、保育者の手と、子どもの肌の上に布を使ったり、服の上から施術したりすることも場合によっては必要でしょう。